

公表

事業所における自己評価結果

事業所名	児童発達支援・放課後等デイサービス こども通所サービス にじいろ (放課後デイ)		公表日	2026年 2月 25日		
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
環境・ 体制 整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係が適切であるか。	8		指定基準に基づいた広さが確保されている。	安全に活動できるようにスペースの確保、工夫をしていく。
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	8		利用状況に応じて職員を増やし配置している。	子どもの人数だけでなく状態をよく把握していく。
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	8		利用者の立場になって数字やイラストをわかりやすく表示する等の見直しを心掛けている。	特性に配慮し、指示が通りやすい工夫を続ける。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	8		室内は毎日の掃除、消毒を行い、清潔を心がけ、こどもが安心して活動できる空間を心がけている。	
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	8		主に活動する場所と落ち着いて個別活動や学習する場所、クールダウンできる場所を区切っている。	人数によって臨機応変に対応する。
業務 改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル (目標設定と振り返り) に、広く職員が参画しているか。	8		各職員がそれぞれのこどもの目標を確認しやすいようにファイルにまとめ都度確認しやすくしている。	
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	8		評価表により、職員間で話し合う機会となり問題点の把握、改善ができた。	昨年からの改善できていないことについて、問題点を確認する。
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	8		普段のミーティングでも、気づいたことを伝えることが出来ている。	これからも職員が意見を言いやすい環境を整える。
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	8		当法人の理事、社労士等からの意見や小中学校、病院等からの評価を活用している。	法人の理事会、社労士さんから意見をいただき改善に努める。
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内で研修を開催する機会が確保されているか。	8		安全管理マニュアル確認、感染症に関する研修、身体拘束・虐待防止の研修をはじめ、各種研修を開催している。	研修に参加できないスタッフには管理者が責任を持って伝える時間を作る。
適切 な 支	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	8		作成している。	支援の方法に変更があれば、随時更新する。
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	8		保護者の主訴を聞き、子どもに関わる支援者の意見を基にした支援計画となるよう努めている。	アセスメントで本人の事、環境、関係機関などを明確に把握するための情報収集に努める。
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	8		支援計画支援者会議を開き保護者の願いや子どもの育ちや課題など職員間で話し合っ作成するよう心掛けている。	子どもに関わる職員の意見や理解を尊重する。
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	8		職員が毎回、支援計画のファイルを活動前に確認し目標を共有して支援を行っている。	
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	8		モニタリングや発達検査などで得たそれぞれの課題を伝え合い情報を共有するよう心掛けている。	何気ない会話からの情報も共有する。
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	8		支援項目に「本人支援」「家族支援」「移行支援」について必ず記載し、具体的な支援内容を考えている。	
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	8		研究会等で学んだ事を職員間で共有し実行できることはすぐ取り入れるようにしている。	

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
援 の 提 供	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	8		こどもたちの興味や発達に応じて、運動・楽器遊び・季節の制作・ゲームなどいろんなグループ活動を工夫している。	
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	8		学習支援などの個別活動と体幹形成、集団でのルールやマナーを学ぶグループ活動を必ず取り入れている。	
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	8		毎回、必ずミーティングを行い、支援内容、活動の確認を行っている。	
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	8		日々の振り返りを大切にして個々の育ちや課題について、職員間で意見を交換したり確かめ合ったり次に生かせるようにしている。	
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	8		学習等の個別活動、グループ活動等の集団活動を日報をつけ、検証・改善につなげるようにしている。	記録を取る時間をしっかり設ける。
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	8		モニタリング予定表を作成し、適切な見直しができるようにしている。	
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせ支援を行っているか。	8		いろいろな体験を積み、自己肯定感をもって、一人一人が自分らしく生きていけるよう支援プログラムを組んでいる。	
	25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	8		日直などの係で何をしたいか自分で選択したり、一日の活動予定を自分で組み立てられるように支援している。	
関 係 機 関 や 保 護 者 と の 連 携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	8		児発管や主任が必ず出席するよう心掛けている。	会議の内容を共有していく。
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	8		日頃から連絡を取り合い連携体制を整えている。	
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	8		必要に応じて行っている。	
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	8		スムーズに移行ができるように情報共有を図っている。	これからも積極的に情報共有に努める。
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	8		今まで対象の児童がいなかったが、今後、そのような移行があれば、情報を提供するよう努める。	
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	8		たじかの園、三田谷治療教育院主催の施設支援の研修を受けている。	
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	8		法人で夏まつりや運動会を開催して、地域の子供達との交流を図っている。	新しいイベントも考えていきたい。
	33	（自立支援）協議会等積極的に参加しているか。	8		参加している。	
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	8		毎回、支援員が送迎時に保護者と直接、活動の様子や家庭での様子を伝えあい共通理解に努めている。	
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	8		保護者向けのペアレントトレーニング講座や、保護者会（就園前、就学前）、虹色カフェでは小児科医や児童心理司の相談会や講演会を実施している。	
36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	8		契約時だけでなく、必要と感じた時に説明するようにしている。	常に質問しやすい環境を整える。	
37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の視点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	8		保護者の主訴を丁寧に聞き、アセスメントやモニタリングをしている。		

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
保護者への説明等	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	8		一緒に確認ながら説明し同意を得る時間を持っている。	
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	8		いつでも話しやすい環境をつくり、保護者の相談に対応している。	
	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機軸を設ける等の支援をしているか。	8		全体の保護者会を開催して保護者同士の交流を図っている。	きょうだい同士で交流できる機会を考えていきたい。
	41	こどもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	8		事業所の苦情受付窓口を設けている。速やかに対応するよう努める。	
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	8		法人のHPで虹色カフェやペアレントトレーニング講座、夏まつりや運動会の行事予定を発信している。	
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	8		個人情報の取り扱いについて書類で説明し同意を得ている。書類等は、鍵付き書庫にて保管。職員全員に徹底している。	
	44	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	8		お手紙や視覚支援を用いてわかりやすくそれぞれに適した情報伝達を工夫している。	
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	8		地域のおはなし会グループの方に活動に参加して頂く機会を設けている。	たくさんの方々と交流できるように考えていきたい。
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	8		マニュアルを作成している。各委員会が研修を受け、職員に訓練を行っている。	
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	8		業務継続計画を策定し、必要な訓練を行っている。	
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	8		契約時や面談時にこどもの通院、服薬、持病の有無について聞き取りをしている。	
	49	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	8		アレルギーについては保護者から聞き取りをし、必要なら医師の指示書を提出してもらう。	
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	8		こどもの安全を第一に考えて訓練している。	
	51	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	8		訓練内容を保護者に伝え、共通理解ができるようにしている。	
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	8		活動後に事業所内で必ず共有し、検討内容を記録している。	
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	8		虐待防止委員会を設置し、職員の研修会を行っている。	
54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	8		必要な時は保護者に説明し了解を得て、支援計画書に記載する。		